日本共産党3名の区議団が果たしてきた3つの役割

日本共産党区議団は議案提案権を生かし、この4年間も、みなさんの願いにこたえ、実現するまで頑張ってきました

役割1　区民のみなさんの声を区議会に届け　区政を動かす

みなさんの願い実現までねばりづよく

党区議団は、みなさんの願いをとりあげ、ねばり強くとりくみ、以下のことを実現してきました。

●子ども医療費の無料化

1975年以来実現と拡充を繰り返し求め、93年に3歳までの医療が無料になりました。条例提案と質問を繰り返し、就学前まで、高校3年生までと一歩一歩広げてきました（表）。

さらに入院給食費への助成を復活させ、無償化をめざします。

子ども医療費無料化の前進

1992	共産党区議団が区議会で質問
1993	3歳までの無料化が実現
1995	就学前まで無料化
2007	中学3年まで無料化
2011	18歳まで無料化

●補聴器購入費の助成制度

2006年から提案し、12年度に実現。その後も助成額の引上げを求め、19年度からは5万円に。さらに引上げを求めています。

●がん検診無料化

有料化されたがん検診を、無料の他区との受診率の比較などを示しながら無料化を求め、19年から再び無料に。

コロナ対策でもくりかえ提案し、実現

- ●介護保険施設で働く職員の定期的なPCR検査
- ●保健所体制の強化
- ●医療機関と介護事業所への千代田区独自の財政支援

役割2　国の悪政から　区民を守る防波堤

国保の負担軽減を求め続けてきました

「重すぎる国保料を何とかしてほしい」党区議団はこの声にこたえ、区長に対し、「繰り入れを増やして」と求め、条例案を提案するなど、繰り返し負担軽減を求めてきました。

声をあげ続けたことで、国保加入者全員にかかる千代田区の均等割額は、東京23区で最も低額になっています。

今年2・3月の予算議会にも、18歳までの子どもにかかる国保料の均等割（1人5万1,400円）をなくす条例改正案を提出しました。必要額は約3,150万円です。

区政に力を入れてほしい施策（区政アンケートより）

医療福祉	
国民健康保険料の負担軽減	29.8%
母子・父子家庭への支援強化	24.9%
介護保険料・利用料の負担軽減	23.4%

役割3　区政の焦点で　解決策を示し 区民とともに実現に力を尽くす

「ボール投げができる公園・遊び場を 」条例の改正案を提案

「ボールが投げられる遊び場を」は子育て世代の強い願いです。党区議団はこの4年間で、神田地域に恒常的な遊び場を設置することや、土日限定の「ふじみこどもひろば」（所有は衆議院）を平日も利用できるよう衆議院に働きかけることなどを繰り返し提案しました。

また、遊び場条例の改正案を2回提案しました（2019年＝遊び場整備の目標を持つこと。2022年＝遊びを「子どもの権利」と規定すること）。

これからも公有地を活かすなど、さらに力を尽くします。

議案提案権を6回活用

党区議団はこの4年間、議案提案権を活用し、次のような条例案を提案しました。

❶子どもの遊び場条例の改正（2回）
❷住宅基本条例の改正
❸子どもの国保料の負担軽減条例（2回）
❹学校給食費の無償化条例

毎年実施 区政アンケート　みなさんの声から出発し、積極提案。実現まで頑張りぬいています

党区議団が毎年とりくんでいる「区政アンケート」は活動の出発点です。

みなさんの声を政策に練り上げ、毎回の議会で積極提案。他会派が反対しても実現まで頑張りぬけるのは、「住民が主人公」が日本共産党の原点だからです。

区民の願いに背を向ける 自民、公明、都ファ

この4年間のおもな条例案への態度（○＝賛成、×＝反対）

	共産	自民	公明	都ファ
遊び場条例の改正案	○	×	×	×
子どもの国保料の負担軽減条例案	○	×	×	×
学校給食費の無償化条例案	○	×	×	×

日本共産党3名の区議団が果たしてきた3つの役割

日本共産党区議団は議案提案権を生かし、この4年間も、みなさんの願いにこたえ、実現するまで頑張ってきました

役割1 区民のみなさんの声を区議会に届け 区政を動かす

みなさんの願い実現までねばりづよく

党区議団は、みなさんの願いをとりあげ、ねばり強くとりくみ、以下のことを実現してきました。

●子ども医療費の無料化

1975年以来実現と拡充を繰り返し求め、93年に3歳までの医療が無料になりました。条例提案と質問を繰り返し、就学前まで、高校3年生までと一歩一歩広げてきました（表）。

さらに入院給食費への助成を復活させ、無償化をめざします。

子ども医療費無料化の前進

1992	共産党区議団が区議会で質問
1993	3歳までの無料化が実現
1995	就学前まで無料化
2007	中学3年まで無料化
2011	18歳まで無料化

●補聴器購入費の助成制度

2006年から提案し、12年度に実現。その後も助成額の引上げを求め、19年度からは5万円に。さらに引上げを求めています。

●がん検診無料化

有料化されたがん検診を、無料の他区との受診率の比較などを示しながら無料化を求め、19年から再び無料に。

コロナ対策でもくりかえ提案し、実現

- ●介護保険施設で働く職員の定期的なPCR検査
- ●保健所体制の強化
- ●医療機関と介護事業所への千代田区独自の財政支援

役割2 国の悪政から 区民を守る防波堤

国保の負担軽減を求め続けてきました

「重すぎる国保料を何とかしてほしい」党区議団はこの声にこたえ、区長に対し、「繰り入れを増やして」と求め、条例案を提案するなど、繰り返し負担軽減を求めてきました。

声をあげ続けたことで、国保加入者全員にかかる千代田区の均等割額は、東京23区で最も低額になっています。

今年2・3月の予算議会にも、18歳までの子どもにかかる国保料の均等割（1人5万1,400円）をなくす条例改正案を提出しました。必要額は約3,150万円です。

区政に力を入れてほしい施策（区政アンケートより）

医療福祉		
	国民健康保険料の負担軽減	29.8%
	母子・父子家庭への支援強化	24.9%
	介護保険料・利用料の負担軽減	23.4%

役割3 区政の焦点で 解決策を示し 区民とともに実現に力を尽くす

「ボール投げができる公園・遊び場を」条例の改正案を提案

「ボールが投げられる遊び場を」は子育て世代の強い願いです。党区議団はこの4年間で、神田地域に恒常的な遊び場を設置することや、土日限定の「ふじみこどもひろば」（所有は衆議院）を平日も利用できるよう衆議院に働きかけることなどを繰り返し提案しました。

また、遊び場条例の改正案を2回提案しました（2019年＝遊び場整備の目標を持つこと。2022年＝遊びを「子どもの権利」と規定すること）。

これからも公有地を活かすなど、さらに力を尽くします。

議案提案権を6回活用

党区議団はこの4年間、議案提案権を活用し、次のような条例案を提案しました。

1. 子どもの遊び場条例の改正（2回）
2. 住宅基本条例の改正
3. 子どもの国保料の負担軽減条例（2回）
4. 学校給食費の無償化条例

毎年実施 区政アンケート みなさんの声から出発し、積極提案。実現まで頑張りぬいています

党区議団が毎年とりくんでいる「区政アンケート」は活動の出発点です。

みなさんの声を政策に練り上げ、毎回の議会で積極提案。他会派が反対しても実現まで頑張りぬけるのは、「住民が主人公」が日本共産党の原点だからです。

区民の願いに背を向ける 自民、公明、都ファ

この4年間のおもな条例案への態度（○＝賛成、×＝反対）

	共産	自民	公明	都ファ
遊び場条例の改正案	○	×	×	×
子どもの国保料の負担軽減条例案	○	×	×	×
学校給食費の無償化条例案	○	×	×	×